されるが，ヘパリン処置，屍体の冷却等の前処理が必要で，当該病院とドクターとの密接な協力が必要である．保存器を用いた場合，腎摘出後，市販の Gambro 社製のもので24時間ぐらい保存でき，最高4日間保存で尿排泄をみとめた例がある．

質問　（学会室）佐藤イクヨ

2）生体腎と屍体腎移植の結果の差はどのようですか．

応答　（腎センター）大貫　忠男

生体腎移植と屍体腎移植の管理の違いは，前者では腎移植後10分前後で尿排泄があるのに対して，屍体腎移植では1週間から遅いものでは1か月尿排泄がみられないために，血液透析を必要とする．また，尿量減少，クレアチニン値の上昇などの指標が使用できないため，拒絶反応の診断が困難で，管理がむずかしい．

6．心不全を伴つたファロー四徴症の3例

（心研小児科）

○篠原　　徹・村上　保夫・佐藤　雄一・
門間　和夫・三森　重和・高尾　篤良

ファロー四徴症（以下 TOF）は，その血行動態より心不全（以下 CHF）がおこりにくい疾患とされ，一般にチアノーゼ性心疾患に著明な心拡大があるようなときはむしろ TOF を除外してかかるのが一般的である．ただ TOF に細菌性心内膜炎，貧血，体高血圧症，心室中隔欠損の自然閉鎖などの病態を伴うときには，心不全症状が出現してくるとされている．最近私達は興味ある3例の CHF を伴つた TOF 例を経験したのでここに報告し，多少の文献的考察を加えたい．

症例1　10カ月，女児

6カ月健診時に，チアノーゼの指摘をうけた．月に1～2回 "anoxic spell" 様の発作がある．入院半月前より感冒に罹患し元気がなくなる．入院時 CTR 60%，肝腫（+），頻脈と心不全症状を示すとともに著明な相対的貧血を認めた．心カテーテルにて TOF の診断が確定し，現在シャント術を施行すべく待機中である．

症例2　1歳4カ月，男児

生後2カ月よりチアノーゼ出現．入院3カ月前（1歳1カ月）頃より心拡大が出現してきた．入院時 CTR 73%，肝腫（+）．心カテーテルの結果 TOF（心室中隔欠損の自然閉鎖）と診断し，外科にて Infurdibular resection および patch-infundibuloplasty を施行され，現在術後経過良好である．

症例3　6歳4カ月，男児

1歳頃よりチアノーゼ出現．TOF として followup していた．入院2カ月前より顔面に浮腫が出現し，しだいに全身に及んできた．入院時 CTR 80%，肝腫（+），上肢血圧170/150．心不全，体高血圧の治療後心カテーテルにて TOF を確認し，外科にてシャント術を受けた．現在術後経過良好である．

7．巨大な腰椎椎間板ヘルニアの3例

（第二病院整形外科）

○石上　宮子・上田　礼子・菅原　幸子・
大野　博子・田辺　智子・市瀬　武彦・
須永　　明・松木　孝行

腰部椎間板ヘルニア，手術時髄核が椎間板部より完全に遊離し，巨大な脱出髄核と確認された3例に相偶し，なんらかの特徴を得るため検討したので報告する．

症例1は23歳女性で，腰痛，右下肢痛を主訴として来院した．脊柱の高度の運動制限，運動痛および両側下肢の腱反射の低下，右下腿筋萎縮，右 L_5 領域の知覚鈍麻がみられ，ミエログラムにて L_{4-5} 間で砂時計様および L_{3-4} 間で全くの陰影欠損像が認められた．手術所見は L_{3-4} 間で硬膜とヘルニアが癒着し，巨大な脱出髄核（重量3.2g）が硬膜外腫瘍の様相を示していた．また，L_{4-5} 間では椎間板に一致し，後方への隆起があり，その部を十字切開しヘルニア（重量1.5g）を一塊として採取出来た．

症例2は44歳男性で両下肢痛とシビレを主訴として来院した．坐骨神経伸展試験両側（+），膝蓋腱反射亢進，アキレス腱反射低下，両側の L_{3-5} の知覚過敏があつた．ミエログラム所見では L_{3-4} 間に一致し，左側前方よりの大きな圧迫像がみられた．手術時 L_{3-4} 間の椎間板は後方へ大きく盛り上り，その中心は破れて髄核が脱出した．その髄核の重量は3.5g であつた．

症例3は31歳女性．腰痛を訴え来院し，前の2症例と同様，脊柱不穏性があり，疼痛も強いものであつた．坐骨神経伸展試験（+），アキレス腱反射低下，知覚障害，筋萎縮が認められた．ミエログラム所見では L_{4-5} 椎間に一致し，左側よりの大きな圧迫像がみられ，手術にて，3つに分離した巨大な脱出髄核が摘出された．

桐田によれば，生理的髄核量は平均4.6g で手術時ヘルニア摘出量平均は1.4g と報告している．これからみて前記3症例の摘出ヘルニア量は3.0g 以上であり，巨大なヘルニアと考えた．これらの特徴を考えると，疼痛や神経根圧迫症状が強く，ミエログラムでかなり大きな欠損像がみられ，手術時硬膜全体を圧迫していた．